

留学

歴史的な円高水準が続いていることを背景に、海外留学への関心が高まっている。欧米などで授業を受けたり、滞在したりする費用が安く済むためだ。そんな為替事情も踏まえ、留学には、おカネがどのぐらいかかるのか、利用できるローンなどはあるのか、調べてみた。

(経済部 伊藤剛)



今年5月に東京都内で行われた「留学ジャーナル」の留学相談会

米大学なら2割安

円高追い風

最近の為替水準をみると、4年前との比較で現在、対米ドルで3割以上、英ポンドで4割以上も円高が進んでいる。留学ジャーナル副社長の加藤ゆかりさんも「今は留学しやすい環境にある」と話す。

■英の語学学校は34%安

そこで本題、留学費用は安くなったのか。具体的に見てみよう。表1。米カリフォルニア大学ロサンゼルス校の英語集中コースでは、留学費用は4年前

表1

◆アメリカ カリフォルニア大学ロサンゼルス校英語集中コース 32週間

	2007年	2011年	対2007年
平均為替レート(対ドル)	118.87円	82.66円	70%
授業料と生活費を合わせた合計金額	186万9825円	142万2165円	76%

◆イギリス セントジャイルズ・ロンドン・セントラル 36週間

	2007年	2011年	対2007年
平均為替レート(対ポンド)	239.90円	135.98円	57%
授業料と生活費を合わせた合計金額	206万1941円	135万3681円	66%

※合計金額は、航空運賃、学生ビザ取得費用、保険、小遣いなどを除く。2011年の為替レートは1~7月の平均。留学ジャーナル調べ

◆日米大学の学費と生活費の比較(ISC留学netによる)

表2

	学費	生活費	合計	合計(円建て)	
日本	国立大学	82万円	132万円	214万円	214万円
	私立大学	130万円	132万円	262万円	262万円
米国	州立大学	6000ドル	9600ドル	1万5600ドル	124万8000円
	私立大学	2万ドル	9600ドル	2万9600ドル	236万8000円

※文部科学省「教育指標の国際比較/平成23年版」などを参考に作成

※1ドル=80円換算。日米ともに一人暮らしで大学に通う前提での1年間の学費と生活費

奨学金年100万円支給も

ただ、円高でも家計が苦しくて留学資金が調達できない人もいるだろう。そこで、海外留学を後押しする奨学金制度を紹介しよう。

返さなくていい給付型では、経団連が海外留学する大学生に1人当たり年100万円の奨学金を支給する制度を作り、2012年度から支給を始める。

埼玉県には「埼玉発世界行き奨学金」という年に200人以上の学生を対象にした給付型奨学金がある。

貸与型では、日本学生支援機構の奨学金制度が有名だ。留学生向けの「第二種奨学金」は金利が年3%程度と低めで、利用条件も緩やかで使いやすい。金融機関の教育ローンを活用する手もある。

最近では年金利が3~5%の商品もあるという。日本政府

ら、生活費を合わせても年124万円が収まるという試算もある。日本の地方都市にある塾で作る留学相談のネットワーク「ISSC留学net」の大場規之代表は「今は一人暮らしで地方から東京の大学に進むより、アメリカの大学に進んだ方が安い例もあるようだ」という。ちょっと表2を見てほしい。

策金融公庫の「教育一般貸付」は、外国の大学などの教育施設に6か月以上留学することを条件に、300万円を上限に今年2・85%の金利で融資する。

■余裕を持って計画を

留学にかかるおカネは留学する国や学校、生活のスタイルで大きく変わる。留学の目的を明確にした上で、現地の事情を調べ、きちんと資金計画を組むことが大事だ。また、今は円高でも、経済情勢の変化で円安に向かう可能性もある。1ドル100円程度まで、円安に戻っても余裕があるように計画を立てるのが無難だ。

留学の情報を集めるには信頼できる留学あっせん業者が開く相談会などに参加するのもいい。例えば、大手では「留学ジャーナル」が10月15~23日にかけて、名古屋、東京、福岡、大阪の4会場で開催する。

地方に住む人には、「ISC留学net」など地方に拠点を設けている会社もある。